

下呂農林事務所の普及活動状況 令和7年7月31日現在

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■下呂市スイートコーン研究会 「南飛驒コーン」目揃え会を開催

7月10日、下呂市萩原町羽根の生産者宅で下呂市スイートコーン研究会（会員12名）の目揃え会が開催されました。

研究会では、2L以上の大きさと糖度が15度以上の朝採りのものを「南飛驒コーン」というブランド名で、地元の農産物直売所や道の駅などで販売をしています。

目揃え会では、農業普及課から出荷基準の説明を行い、基準を満たしているものだけを「南飛驒コーン」として出荷するよう徹底を図るとともに、「南飛驒コーン」の更なる信頼度向上に向けて、今年度から各生産者が出荷

する商品に「ブランド名（南飛驒コーン）・生産者名・生産地・生産者の連絡先」が明記されたシールを貼る取組みを開始することから、各生産者が事前に作製したシールの確認も行いました。

また、事故品（虫害や過熟など）を減らすための対策や、今後の栽培管理（追肥、病害虫防除など）、鳥獣被害対策について農業普及課から指導を行いました。

生産者からは、農薬の使用に関する質問やシールが剥がれない貼り方、病害虫の発生状況、鳥獣被害状況など、活発な意見交換が行われました。

農業普及課では、今後も高品質なスイートコーンの生産・販売に向け、栽培技術の指導と販売支援を行っていきます。

(地域支援係)



【目揃え会の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■下呂市野菜出荷組合トマト部会 栽培管理と出荷について目揃え会で情報共有

下呂市では、今年度から2名の新規就農者がトマト生産を開始し、合計54戸の生産者が主に中京市場向けに夏秋トマトを栽培出荷しています。

本格的な出荷シーズンを前に、7月2日にJAひだ益田トマト選果場において、7月3日にはJAひだ竹原野菜集荷場において、下呂市野菜出荷組合トマト部会の出荷目揃え会が開催されました。

最初に、中矢トマト部会長から飛驒トマト部会の今年度の出荷目標について、JAひだ益田営農センターの池戸センター長から晩期までの安定出荷について、JA全農岐阜園芸課の荒木氏から今年度の出荷販売計画について、それぞれ説明や呼びかけがありました。次に、益田トマト選果場の田口場長から今年度の出荷規格とトマト果実の品質基準、出荷のルールについて説明があり、部会員は規格外品の現物サンプルを手に取り熱心に確認していました。

農業普及課からは、今後発生増加が見込まれるトマトの病害への対策と農薬の適正使用指導、熱中症への注意喚起を行いました。今後も引き続き、下呂市農務課やJA営農指導員と連携して巡回指導や情報共有を行い、夏秋トマトの単収向上、栽培管理技術の向上を支援していきます。

(地域支援係)



【目揃え会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■土地利用型経営体 スマート農機の実演会を開催

農業普及課では、中山間地域における効率的な農業経営の実現に向けて、土地利用型農業のスマート農業技術導入を支援しています。

7月29日には、スマート農業の技術力向上研修「中山間地域の法面における草刈作業の省力化研修」を、農政課スマート農業推進室と連携して下呂市内で開催し、県内のスマート農業推進に携わる関係機関の職員や、農業者など22名が参加しました。

研修会では、下呂地域でラジコン草刈機を積極的に活用している（資）源丸屋ファームの曾我康弘代表から、これまでの取り組みと活用のポイントや留意点について説明があり、その後実際の水田畦畔で草刈り作業の実演が行われました。

また、傾斜の急な畦畔にも対応可能で安全性が高く、今後の普及拡大が期待される「親子式畦畔草刈機」について、農機メーカーからの説明と作業の実演が行われました。

参加者からは「ラジコン草刈機はパワフルで草刈り作業の負担軽減につながりそう」「親子式草刈機は思ったよりも作業スピードが速い」などの感想が聞かれました。

農業普及課では、今後もスマート農業技術の導入や活用に関する情報提供や助言を行い、この地域のスマート農業の取組みを支援します。



【メーカーの説明を聞く参加者】

(地域支援係)